

## ①助産学専攻科

### ② 入試区分

助産学専攻科（Ⅰ期）

### ③ 出題科目

母性・小児看護学

### ④ 出題の意図

本試験では、助産師としての基盤となる母性看護学および小児看護学の基礎的知識を問う問題とした。

本学の出題の意図として、基本的知識の獲得状況と対象者の状況を的確に把握し、適切な判断を下すためのアセスメント能力を確認することを目的としている。

2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題  
母性・小児看護学

受験番号 \_\_\_\_\_

I. 母子保健法に含まれる事項について記載されているものすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① 新生児の訪問指導
- ② 妊産婦健康診査
- ③ 母子健康手帳の交付
- ④ 産前・産後休業
- ⑤ 育児時間
- ⑥ 妊婦の軽易業務転換
- ⑦ 保健指導または健康診査を受けるための時間の確保
- ⑧ 妊娠中の通勤緩和
- ⑨ 低出生体重児の届け出
- ⑩ 妊娠の届け出

II. 妊婦健康診査について答えなさい。

妊婦健康診断の適切な間隔について正しい数字を書きなさい。

妊娠 24 週未満：(①            ) 週間に 1 回

妊娠 24～(②            ) 週未満：(③            ) 週間に 1 回

妊娠(②)～出産まで：(④            ) 週間に 1 回

III. プレコンセプションケアについて正しいものすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① 成人女性が支援の対象である。
- ② 禁煙が勧められている。
- ③ サプリメントを含めた葉酸サプリメントの摂取が推奨されている。
- ④ 風疹ワクチン接種は妊娠中に接種することが推奨されている。
- ⑤ 男性への HPV ワクチン接種は、全国規模では定期接種の対象ではない。

**2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題**  
**母性・小児看護学**

IV. 胎盤におけるホルモンの産生とホルモンの働きについての記載である。

それぞれのホルモン名を（ ）内に書きなさい。

- ① （ ）：妊娠 4 週頃から母体尿中に検出され、妊娠 1 2 週頃にピークになる。妊娠黄体に働きかけ、子宮内膜を維持することによって妊娠を維持する働きがある。
- ② （ ）：母体の糖代謝を更新させ、血糖上昇作用を示し、胎児へ優先的にグルコースを供給することにより、胎児の成長、発達を促す。
- ③ （ ）：子宮筋の肥大増殖と子宮内膜の腺と血管を増殖する。妊娠末期に頸管の熟化を促し、徐々に柔らかくし分娩に備える。
- ④ （ ）：妊娠中の排卵を抑制する。乳腺を肥大させつつ乳汁分泌を抑制し、授乳に備える。

V. 妊娠の成立について（ ）の中に正しい語句を書きなさい。

卵胞は、①（ ）細胞から排出される。

卵子は卵巣から腹腔に排出された後、②（ ）にとらえられ、③（ ）で受精する。

受精卵は、分裂を繰り返し④（ ）の状態で子宮腔に到達する。輸送された受精卵が子宮内膜に接着し、埋没することを⑤（ ）という。

妊娠が成立すると、⑥（ ）の影響で高温相が持続するが、妊娠⑦（ ）週頃には下降する。

VI. 出生直後、新生児のまぶたの上に赤いあざがあり、母親は心配そうにしている。

もっとも疑われるものはどれか。 番号に○をつけなさい。

- ① サーモンパッチ
- ② 莓状血管腫
- ③ 色素性母斑
- ④ 産瘤
- ⑤ 分娩時の圧迫による内出血

2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題  
母性・小児看護学

VII. 新生児の頭部について ( ) の中に正しい語句を記載、あるいは正しいほうに○をつけなさい。

頭頂骨と後頭骨に囲まれた部分は(① )といい、前頭骨と頭頂骨に囲まれた部分は(② )である。分娩時に正常な回旋がなされている場合 ( ① ・ ② ) が触れる。出生後、約(③ ) 歳で閉鎖するのは ( ① ・ ② ) である。

VIII. DENVER II (デンバー発達判定法) で、生後 12 か月児の 90%ができるとされている項目をすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① バイバイをする。
- ② 両手の積み木を打ち合わせる。
- ③ 一人で上手に立っている。
- ④ 後ずさり歩きができる。
- ⑤ 意味のある言葉 (ママ、パパなど) 1 語文を話す。
- ⑥ 自分で食べ物を口に持っていく。

IX. 離乳食について正しいものをすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① 低出生体重児で出生した場合、離乳食の開始時期は生後 4 か月頃が適切である。
- ② 1 日のうち、数回に分けて開始する。
- ③ 生後 8 か月程度で前歯が 8 本生えそろう。
- ④ 離乳完了期の後半頃に第一乳臼歯が生え始める。
- ⑤ 離乳食開始直後は、食物の感触を把握するために手づかみが良いとされている。
- ⑥ アレルギーの発症を懸念した離乳食開始時期の延期は推奨されていない。

X. 新生児の生理的体重減少率 (%) を導く式を書きなさい。

2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題  
母性・小児看護学

XI. 以下の( )の中に正しい語句を書きなさい。

性感染症の中で最も罹患者数が多いのは(①) 感染症であり、多くは症状が少ない。平成 11 以降、罹患者が約 20 倍に激増している性感染症は(②) である。

胎児循環において、(③) は胎盤からでて肝臓で分岐し、一部は門脈から肝内へ、大部分は(④) を経て(⑤) へ注ぎ、そこから(⑥) へ流入する。(⑥) に流入した血液の 60% は心房中隔の(⑦) を通って(⑧) へ入り、(⑨) を経て大動脈に送られる。上大静脈から(⑥) に注ぐ血液は右心室を経て(⑩) に送られるが、肺に呼吸機能がないため、肺へは少量の血液が流れるだけで、ほとんどは短絡路である(⑪) を通って大動脈に合流し、左心室からの血液とともに下半身に送られる。

妊娠(⑫) 週頃には肺胞内に十分な(⑬) が分泌され、肺の機能が完成する。この(⑬) が十分に分泌されない状態の疾患を(⑭) という。

成熟した胎児が低酸素状態にさらされると、迷走神経反射によって腸管蠕動運動の亢進と肛門括約筋の弛緩が起こり羊水中に胎便を排出される。この胎便が気道内に吸収されることを(⑮) という。

XII. 以下の事例 1～事例 5 について答えなさい。

**事例 1**

A さん(15 歳)は高校 1 年生である。部活動は陸上部に所属し、レギュラーになるためにハードな練習をこなしている。ここ数か月間、月経がなく、心配になり、母親とともに B 産婦人科クリニックを受診した。A さんは小学校 6 年生のころに初経を迎え、30 日周期で月経が発来していた。現在交際している同級生の男子との性交経験がある。

助産師として、問診すべきであると考える項目を簡潔に書きなさい(複数可)。

**2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題**  
**母性・小児看護学**

**事例 2**

Cさんは30歳既婚女性である。今回初めての妊娠、出産である。

分娩予定日は令和7年12月1日である。令和7年11月30日14時頃に破水感を訴え、同日15時に来院した。来院時は、陣痛はなく、胎児心拍モニタリングは、胎児心拍数基線が140bpm、胎児心拍数基線細変動あり、一過性頻脈が20分に3回確認された。一過性徐脈もなかった。検査の結果、破水が確認された。

この時の診断と支援について正しいものをすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① 前期破水である。
- ② 前駆陣痛である。
- ③ 胎児の健康状態は正常である。
- ④ 一旦退院し、経過をみる。
- ⑤ 初産婦であり、12月1日3時頃に分娩に至ることが予測される。
- ⑥ 分娩に備え、短時間での入浴を勧める。

**事例 3**

Dさんは28歳経産婦である。

本日妊娠37週2日であり、7分おきの陣痛を訴え、来院した。胎児心拍モニタリングでは胎児の状態は正常であった。しばらくすると、陣痛が強くなった。

内診しようとするとう児頭が陣痛発作時に陰裂から見えるが、陣痛間欠時には、後退し見えなくなっていた。

この時の診断と支援について正しいものをすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① 発露の状態である。
- ② 排臨の状態である。
- ③ 子宮口はまもなく全開大することが予測される。
- ④ 胎児は第1回旋の途中である。
- ⑤ 児頭の下降を促すために独歩で分娩室に移動する。
- ⑥ 早産であるため小児科医に立ち会いを要請した。

2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題  
母性・小児看護学

**事例 4**

Eさんは35歳経産婦である。産後2日目である。母児共に身体的な経過は問題なく過ごしている。

「育児が大変なので、しばらく3人目は控えたい。適切な避妊法を教えてください。」と相談があった。

この時の診断と支援について正しいものをすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① 入院期間内に IUD の挿入を勧める。
- ② 低用量ピルの使用は原則的には、産後 1 か月以降であることを伝える。
- ③ 完全母乳育児を行うことで避妊効果があることを伝える。
- ④ 潤滑ゼリー付きコンドームを使用することで産後直後から性交可能であり、避妊も可能であることを伝える。
- ⑤ 産後の月経開始前の排卵で妊娠することもあると伝える。

**事例 5**

Fさんは53歳の女性である。ここ数年間、更年期症状に悩まされてきた。

この時期におけるホルモン動態の変化について正しいものをすべて選び番号に○をつけなさい。

- ① ギナドトロピン放出ホルモン（GnRH）値の減少
- ② 卵胞刺激ホルモン（FSH）値の減少
- ③ 黄体形成ホルモン（LH）値の上昇
- ④ エストロゲン値の減少
- ⑤ プロゲステロン値の上昇

2026 年度・助産学専攻科 I 期入学試験問題  
母性・小児看護学

事例 6

G さん（34 歳 1 回経産婦）は、現在妊娠 32 週 4 日であり、経過は順調である。2 歳の子どもを育児している。助産師外来にて助産師 H との会話の中で、

「前回の分娩はとても長く、会陰切開と吸引分娩にて出産した。会陰部の痛みは産後 2 か月程度持続し、育児もままならず辛い体験であった。今回は無痛分娩がいいと思っているが、どうでしょうか」と相談があった。

助産師としてどのように答えるか明確に書きなさい。

2026 年度 助産学専攻科 I 期入学試験問題

専門科目入学試験（小児看護学・母性看護学）解答例

出題意図：本試験では、助産師としての基盤となる母性看護学および小児看護学の基礎的知識を問う問題とした。本学の出題の意図として、基本的知識の獲得状況と対象者の状況を的確に把握し、適切な判断を下すためのアセスメント能力を確認することを目的としている。

I. 母子保健法に含まれる事項について記載されているものすべてに（ ）の中に○をつけなさい。

|   |
|---|
| ① |
| ② |
| ③ |
| ⑨ |
| ⑩ |

II. 妊婦健康診査について答えなさい。

|   |    |
|---|----|
| ① | 4  |
| ② | 36 |
| ③ | 2  |
| ④ | 1  |

III. プレコンセプションケアについて正しいものすべて選び番号に○をつけなさい。

|   |
|---|
| ② |
| ③ |

IV. 胎盤におけるホルモンの産生とホルモンの働きについての記載である。  
それぞれのホルモン名を（ ）内に記入しなさい。

|   |                  |
|---|------------------|
| ① | ヒト絨毛性ゴナドトロピン hCG |
| ② | ヒト胎盤性ラクトゲン/hPL   |
| ③ | エストロゲン           |

|   |         |
|---|---------|
| ④ | プロゲステロン |
|---|---------|

V. 妊娠の成立について（ ）の中に正しい語句を書きなさい。

|           |
|-----------|
| ① 成熟/グラフ  |
| ② 卵管采     |
| ③ 卵管膨大部   |
| ④ 桑実胚     |
| ⑤ 着床      |
| ⑥ プロゲステロン |
| ⑦ 16      |

VI. 出生直後、新生児のまぶたの上に赤いあざがあり、母親は心配そうにしている。

もっとも疑われるものはどれか。番号に○をつけなさい。

|   |
|---|
| ① |
|---|

VII. 新生児の頭部について（ ）の中に正しい語句を記載、あるいは正しいほうに○を書きなさい。

|            |      |
|------------|------|
| ①          | 小泉門  |
| ②          | 大泉門  |
| ① あるいは②を選択 | ①    |
| ③          | 1 年半 |
| ①あるいは②を選択  | ②    |

VIII. DENVER II（デンバー発達判定法）で、生後 12 か月児の 90%ができるとされている項目をすべて選びなさい。

|   |
|---|
| ① |
| ② |
| ⑥ |

IX. 離乳食について正しいものをすべて選びなさい。

|   |
|---|
| ④ |
| ⑥ |

X. 新生児の生理的体重減少率（％）を導く式を書きなさい。

$$(\text{出生時体重}-\text{現在の体重})\div\text{出生時体重}\times 100$$

X I. 以下の（ ）の中に適切な語句を記入しなさい。

|   |                   |
|---|-------------------|
| ① | クラミジア             |
| ② | 梅毒                |
| ③ | 臍静脈               |
| ④ | 静脈管/アランチウス管       |
| ⑤ | 下大静脈              |
| ⑥ | 右心房               |
| ⑦ | 卵円孔               |
| ⑧ | 左心房               |
| ⑨ | 左心室               |
| ⑩ | 肺動脈               |
| ⑪ | 動脈管/ボタロー管         |
| ⑫ | 34                |
| ⑬ | 肺表面活性物質/肺サーファクタント |
| ⑭ | RDS/呼吸窮迫症候群       |
| ⑮ | 胎便吸引症候群           |

X II.

事例 1

最終月経の開始日と月経の期間、食事の状況、痩せ願望の有無、部活動における運動量、学校生活での心身のストレスや負担感等の有無、性交時の避妊法、性交に関する知識の程度、保護者にどの程度相談できているか、等

事例 2

|   |
|---|
| ① |
| ③ |

事例 3

|   |
|---|
| ② |
|---|

事例 4

⑤

事例 5

③

④

以上